

報告

世界史履修に関する短大生の意識調査

Survey on Junior College Students' Opinions about High School World History Courses

吉原秋^{*1}, 小川春美^{*1}, 鈴木道也^{*2}, 安井萌^{*3}, 小川知幸^{*4}, 畑奈保美^{*5}, 津田拓郎^{*6},
Aki YOSHIHARA, Harumi OGAWA, Michiya SUZUKI, Moyuru YASUI,
Tomoyuki OGAWA, Naomi HATA and Takuro TSUDA

Keywords: *World History Education, Liberal Arts, University Entrance Examination*
世界史教育, 教養教育, 大学入学試験

1. はじめに

近年の急激なグローバル化にともない、国境を越えた人々の交流がますます盛んになっている。一見こうした動向から疎遠に見える地方のレベルでも、交通インフラや情報通信技術の発展により、各地の観光業や地場産業が直接世界とつながる機会が飛躍的に拡大している。このような現状にあって、基礎教養的なものであれ問題解決志向型のものであれ、世界の過去を知ることは世界史学習の重要性は以前にも増して高まっている。にもかかわらず、現在日本の学校教育で世界史学習の機会が十分に提供されているとはいえない。

高等学校卒業生の大学・短期大学進学者は今や五割を超えるが、残りの五割弱の卒業生にとっては、高等学校における世界史教育が、学校で世界史を学ぶほとんど最初で最後の機会となっている。かたや大学・短期大学進学者にとっても、歴史学を専攻する者でない限り、歴史をさらに深く学べるのは教養教育の場だけにほぼ限られる。しかも、これら高等学校や大学における世界史(外国史)教育がはたして満足いく効果を上げているかという、かなり疑問である。

2006年のいわゆる「世界史未履修問題」は大きな社会問題となっただけではなく、その後の世界史教育、外国史研究にとっても重要な影響を与えた。世界史未履修問題とは、2006年10月の新聞報道によって、一部の高等学校で本来必修科目である世界史未履修のまま生徒を卒業させていた事実が報道されたことに端を発する。文部科学省の調査で、世界史以外にも必修科目が未履修であった実態が明らかになり、高等学校の受験重視の姿勢に批判が向けられた。これをきっかけに、高等学校での教科としての世界史教育について多くの議論がなされるようになる。

大学の教育・研究者の側からも、高等学校における世界史教育と、大学における教養教育としての外国史概説の授業あるいは歴史学研究成果とを接合する「高大連携」の試みが積極的に展開されつつある。注目すべき取り組みとしては、大阪大学歴史教育研究会による世界史教育

に関するアンケートとその結果をもとにした提言、日本学術会議による高校の歴史教育のあり方についての提言、さらに、上記の提言を踏まえた、西洋中世史学会会長・服部良久教授からの呼びかけ(「中世西洋史用語リスト」の検討)が挙げられる。鶴島他(2013)が指摘する通り、世界史未履修問題あるいはセンター試験での世界史離れという言説は、高校教育側の抱える問題ではなく大学教育及び歴史学研究が向き合うべき課題となっている。なお、近年の動向については鈴木他(2016)が詳述しているので、参照されたい。

2. 研究概要

本研究グループでは上記のような今日的状況と課題を踏まえ、大学が高等学校での世界史教育と連携した教育ないし研究のための実践的方途の探求を目指している。そのためには前提とすべき学生像を明らかにする必要がある。そこで、東北地方、関東地方、中部地方、近畿地方の大学・短期大学の教員の協力を得て、現在の大学生が、高等学校在学中に世界史A、Bのいずれを履修したのか、大学受験時に世界史科目を選択したのか、という実態と、世界史学習の意義をどのように考えているのか、という意識とについて、質問紙による調査を実施した。

本稿では、全国的研究の端緒として、岩手県立大学盛岡短期大学部での調査結果について試行的に考察する。

3. 盛岡短期大学部における質問紙調査

盛岡短期大学部における質問紙調査は平成27年の11月に実施した。調査の対象となった学生は盛岡短期大学部における1年生で、調査は必修授業であるキャリアデザインIIの授業の後に担当教員の協力を得たうえで行われた。調査の当日にその授業に出席していた学生(生活科学科53名、国際文化学科66名、計119名)の回答が本報告には記載されている。質問紙への記入時間はおよそ5分、回答は無記名で行われ、質問紙は記入後その場で回収された。

*1 国際文化学科、*2 東洋大学、*3 岩手大学、*4 東北大学、*5 東北学院大学、*6 愛知県立大学

4. 調査結果

質問内容と回答結果は以下のとおりである。

なお、質問項目の5番と6番は自由記述の回答であり、本報告では5番の回答のみ、選別して考察の部分に記載している。

1. 高校在学時に世界史を履修しましたか。

	生活科学科 (N=53)	国際文化学科 (N=66)
① はい	51 (96%)	62 (94%)
② いいえ	2 (4%)	4 (6%)

2. 1. で「はい」と回答した方に伺います。履修した世界史の科目はどれですか。

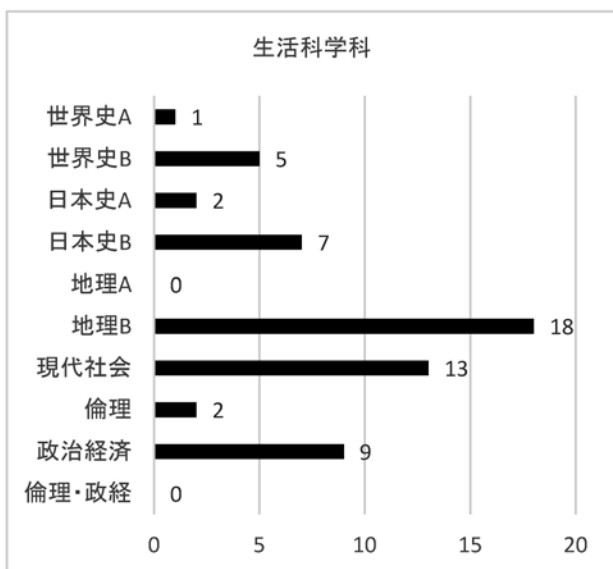
	生活科学科 (N=51)	国際文化学科 (N=62)
① 世界史A	35 (69%)	34 (55%)
② 世界史B	11 (22%)	29 (47%)
③ わからない	5 (10%)	4 (6%)

(選択肢①と選択肢②との複数回答あり)

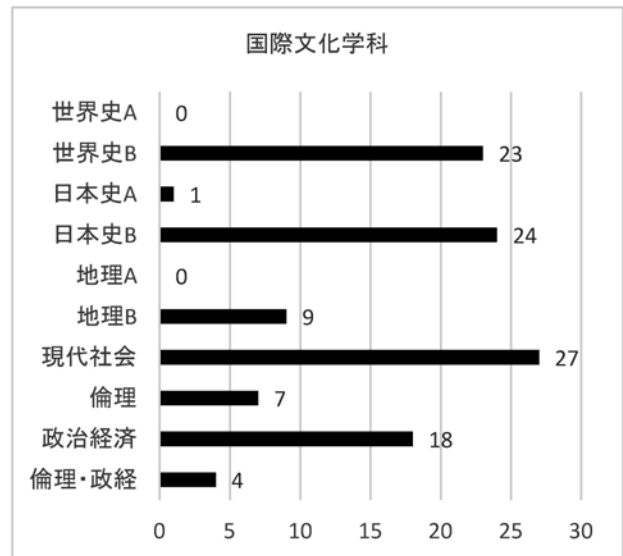
3. 大学入学時の入学試験（センター試験含む）で地歴・公民の科目を受験しましたか。あてはまるものに○をつけてください。（在学中の大学には限定しません。）

	生活科学科 (N=53)	国際文化学科 (N=66)
① 受験した	38 (72%)	58 (88%)
② 受験しなかった	15 (28%)	8 (12%)

4. 3. で①と回答した方に伺います。そのときに受験した科目はどれですか。（複数回答可）



生活科学科 (N=53)			
①世界史A	1 (2%)	②世界史B	5 (9%)
③日本史A	2 (4%)	④日本史B	7 (13%)
⑤地理A	0 (0%)	⑥地理B	18 (34%)
⑦現代社会	13 (25%)	⑧倫理	2 (4%)
⑨政治・経済	9 (17%)	⑩倫理・政治経済	4 (6%)



国際文化学科 (N=66)			
①世界史A	0 (0%)	②世界史B	23 (35%)
③日本史A	1 (2%)	④日本史B	24 (36%)
⑤地理A	0 (0%)	⑥地理B	9 (14%)
⑦現代社会	27 (41%)	⑧倫理	7 (11%)
⑨政治・経済	18 (27%)	⑩倫理・政治経済	4 (6%)

5. 高校で世界史が必修科目なのを知っていますか。

	生活科学科 (N=53)	国際文化学科 (N=66)
① 知っている	31 (58%)	43 (65%)
② 知らない	22 (42%)	23 (35%)

6. 高校で世界史が必修科目なのをどう思いますか。

考察の部分で選別した回答のみ記載

7. 世界史を学ぶことはどのような役に立つと思いますか？

本報告では1. で「いいえ」と答えた学生の回答のみを紹介する。

5. 考察

5-1 質問項目1番から5番までの回答集計から世界史が高校での必修科目になっているにも関わらず、

質問項目 1 番に「履修しなかった」と答えた学生が若干名いる。本当に履修していないのか、あるいは、履修したにもかかわらずそのことを記憶していないのかは、不明である。

質問項目 2 番では、学科によって結果に差が出た。国際文化学科の回答者 62 名のうち、世界史 A、B ともに履修したと回答した者は 5 名いた。生活科学科と国際文化学科では、入学試験で課す科目がそれぞれ理系重視、文系重視となっており、そのことが高校時代の履修と密接に関係していると考えられる。質問項目 3 番の結果にも、同様に学科間の差異が影響しているよう。

質問項目 4 番にも学科ごとに違いが出ている。理系科目を入試で課している生活科学科では、地理 B を受験した学生が全体の三分の一を占めており、現代社会、政治・経済が 25%、17% で続いている。一方、文系科目を入試で課している国際文化学科では、現代社会、日本史 B、世界史 B、政治・経済が上位 4 位であり、それぞれ学生全体の 41%、36%、35%、27% である。大学入試センターが公表しているデータによれば、センター入試における受験者数は日本史 B、地理 B、現代社会、世界史 B の順となっており、4 位の世界史 B の受験者数は 1 位の日本史 B の三分の二である。本調査ではセンター試験を含むすべての入学試験について問うているので、正確な比較はできない。とはいえ、国際文化学科の受験動向についていえば、世界史が日本史と比して受験時に避けられている様子はここでは見られない。この点については、他大学の調査結果と比較することにより、詳細な分析の必要があろう¹⁾。

質問項目 6 番では全体で 4 割近い学生が、世界史が必修科目であることを「知らない」と回答している。いわゆる未履修問題から 9 年経過しているとしても、高い割合であるといえよう。

5-2 記述式項目の回答のまとめ

本調査では記述式で回答を求める質問を最後に 2 項目入れた。質問項目 6 番は「高校で世界史が必修科目なのをどう思いますか」で、質問項目 7 番は「世界史を学ぶことはどのような役に立つと思いますか」であったが、本報告ではページ数に限りがあり、また両方の質問に対する回答が似通っていたため、7 番の質問の回答は 1 番の質問に「いいえ」と答えた学生の回答のみを紹介する。

(1) 質問項目 6 番に対する未履修者の回答

回答を分析するにあたり、まず注目したのは、質問項目 1 番で高校在学時に世界史を履修しなかったと答えた被験者の回答である。それは世界史を履修したことがなければ、世界史が必修であることをどう思うかの判断も出来かねるという推測があったからである。むしろ世界史を勉強したことがなければ世界史を学ぶ意義も実感できないので、それに対しては否定的な意

見しかもたないのではないかと予想したのである。結果的に 6 名のうち 4 名は以下のような否定的な回答であった。

「世界についてのいろいろなことを知れるとはいえ、必修の必要はないのではと思う」、「世界史よりも日本史を必修にするべきだと思う」、「母国を軸に世界で何が起こったかを知る方が大切だと思う。(日本史の方が大切だと思う)」、というような世界よりもまず日本について知らなくてはいけないという理由が背景にあるコメントのほかにも、「世界史が好きなのも嫌いな人もいるから、自分が得意なものを選ぶようにしたほうがよいと思う」というものも見られた。

6 名のうちの 2 名からは肯定的な回答が得られた。それは、「大学にきてみて世界史の知識がある方が理解しやすい講義もあるので、必修なのは良いと思います」、というものと「世界史によって、日本だけでなく、他の歴史を知ることでもでき、日本側からの視点で歴史、戦争などを見るだけでなく、外国側から見てみることもできるので良いと思う」というものであった。他の面に役に立つからということと、異なる視点を持つことが大事だという考えが表れているコメントであるが、以下に掲げる世界史を履修した学生のコメントにも同様なものが見られた。

(2) 質問項目 6 番に対する履修者の回答

i. 明らかに否定的なもの

高校在学時に世界史を履修した被験者のうち明らかに否定的な理由を挙げた学生の割合は生活科学科では 9.4%、国際文化学科では 8% であり、全体の割合としては大きくなかった。

回答の例としては「日本の高校なので、世界史よりも日本史を必修にするべきだと思う。世界史を必修にするなら、現代社会や政治・経済で、現在の世界の状況を学ぶほうが、今後役に立つと思う」、「世界史 B は覚えることが多いので好き嫌いはあると思うので必修は向いていないと思います」、「世界史よりも日本史を必修にしたほうが良いと思う。世界を知る前に日本の歴史を共に知る必要があると思う」、「個人的に苦手な教科であったので、必修科目ではなくても良いかと思う。また、日本史の方が役に立つ気がする」、「試験に使うところを受験する人や好きな人は取ってもいいと思うが、必要ないところや嫌いな人は苦痛だと思う。よって必修にしなくてもいいのではないかとと思う」などのようなものが挙がった。

単なる好き嫌いという問題のほかにも、世界史は試験のための暗記科目という認識が強く見られ、それから苦手意識を感じるようなコメントと、日本史や他の科目のほうが役に立つという考えも表れている。

ii. 中立的・または必修にする理由が分からないというもの

履修者で明らかに否定的な理由を挙げた学生の割合は生活科学科では 3.8%、国際文化学科では 13% であり、全体の割合としては大きくはないが、学科間で差異が見られた。

「逆になぜ世界史が必修なのか知りたい」、「知る必要があるのがよくわからない。高校で勉強したが、今まで役にたったこ

とがない」というようなコメントは否定的と捉えるか中立的と捉えるかは解釈が分かれるところである。本報告では「分からないから」、「役に立てたという実感を持てたことがないから」肯定的とも否定的とも判断し兼ねた、と理解しておく。

以下、同様に回答例を挙げる。「自分は高校生のとき1年生のときだけ世界史Bを必修で履修しました。2・3年では履修しなかったので役に立っているかどうかは正直びみょうです」、「私の学校では1年生の時に全員世界史をやって2年生から日本史か世界史かを選択する形だったので、必修ではなくとも問題はないように思う」、「高校一年のとき、世界史Aが必修だったが、内容をおぼえているわけではないので、選択でも良いと思う」。

iii. 肯定的なもの

世界史履修者のなかで肯定的なコメントをした割合は全体の中で最も大きく、生活科学科で87%、国際文化学科で71%であった。本報告では挙げられたコメントを八つのカテゴリーに整理し、類似の内容のコメントは割愛した上で記載する。

カテゴリー1：現代の国際社会における問題を知るうえで大切だから

- 私自身世界史Bを勉強して、現在の世界問題がどのように発展したのか、新聞を読んだ時とても役に立つ。今までのストーリーを知っていると、全部話がつながるし、これからどんなことをすれば、未来こうなってしまう、という予想もつきやすいと個人的には思っている。必修科目であることはいいことだと思う
- 現代の世界で問題になっていることは、必ず過去から始まっていることであり、全てがつながっていると思う。今を知るには過去を知る必要があるので、大切な科目だと感じている
- 世界がどのように動いてきたのか、またそこに日本はどう関わってきたのか学ぶことは非常に重要なことだと思います。しかし、高校で履修する授業の時間ではおおまかな流れを追うことしかできず、特に世界と日本との関わりが複雑になる近・現代史について十分に学ぶことができていないのが現状であり、世界史を学ぶ意味も薄くなってしまっていると思います

カテゴリー2：日本との比較ができるし、日本を知るうえで大切だから

- 日本の歴史と関連づけて、日本でこんなことがあったとき世界ではこんなことが起こっていた、というのを知れるのはおもしろくて良いと思う
- 私は日本史は中学校で割と大部分は習ったので、高校で地理、世界史、日本史の中から選択するとき世界史が面白そうと思って1年次に世界史A、2年次に世界史Bのコースを選択しました。世界の歴史と日本史を比較し

たり各国の歴史を知ること大事だと思うし、ためになると思うので必修が良いと思う

- 世界の歴史を知ること新しい視点で日本を見て、理解を深めることができるので、必修科目であるのが良いと思う
- 世界のことを知ると、日本のしてきたことを客観的に知ることができていいと思います

カテゴリー3：世界を知り、グローバル社会に対応するため

- 現在では国際化が進んでおり、他国の歴史を知ること重要だと思いますので、必要だと思います
- 日本史では主に国内の歴史について学ぶことができるが、グローバル化が進んだ現代では世界の歴史を知れるため良いと思う。私の時は1年次にしか学んでいなかったもので、3年間やってみたかったと思う
- 日本だけでなく、様々な国の歴史を知っておいた方が良い。考えが偏るから
- 西洋の昔の人の生活や歴史、考えを知ることができるので良いと思う
- 世界にはどのような国があって、その国はどのような歴史があってできているかを知ることができるので世界を知る上で大変重要であると思う

カテゴリー4：大学での勉強で必要だから

- 商業高校だったこともあり世界史は少ししか勉強しなかった。大学の授業で世界史の知識が必要になることが多いので、必修であるべきだと思う
- 自分の学科では世界史関係の講義が多いので知っておくことで幅がきいていいと思う
- 私の場合は、大学で世界史の知識を用いた授業を受けたので役に立ちました。高校での世界史は必要だと思います

(このカテゴリーに分類されるコメントは全て国際文化学科の学生からのもの)

カテゴリー5：一般教養として大切だから

- 一般教養とされる分野なので適切だと思う
- 世界の歴史を知る良い機会だと思う。テレビとかだけでは分からない所もあるので、一般常識程度に学べれば良いと思う

カテゴリー6：必修にしないと学ぶ機会がないから

- 良いと思う。日本のことについてはいろいろな場面で学ぶと思うが、世界の歴史については学ぶ機会が少ないと思うので、よいと思う
- 中学まで、世界史を扱わないので必要だと思う。興味がない人が多いので、必修にすることで興味をもつ人が増えると思う

- 世界史を知るいい機会になると思う。高校で必修にしておかないと、それ以降世界史を勉強する機会はないから(最後のコメントは生活科学科の学生からのもの)

カテゴリー7：他の面で役に立つから

- 世界史Aは詳しくすぎず概要を知るためには必要だと思う。世界史だけに限らず生かされるから
- 外国に行ったとき、または、外国人と話すときに、ある程度その地域の知識は必要だと思うので、必修なのは良いと思う

カテゴリー8：その他

- 世界史はあまり印象に残っていません。もしかしたらAをやったのかもしれないです
- 3年生になってから、受験に使わない世界史Aをやったため、正直大変だった
- 先生が面白い授業をしてくれたため、必修で良かった。理系だったため、そうでないとその後は関わらなかっただろうと思われる

(3) 質問項目7番に対する未履修者の回答

前述のとおり本報告では生活科学科、国際文化学科合わせて6名の未履修者から寄せられた回答のみを紹介する。(1)で述べたように、質問番号6番に対しては、否定的な回答が4名、肯定的な回答が2名であったが、ここでは全て肯定的なコメントであった。

- 世界の国々の歴史を知ることで、なぜその国にそんな文化が根づいたのかや、今の国際情勢を理解する手立てにもなると思います
- 世界の中における「日本」をわかりやすくすることに役立つと考える。しかし、このことは、まず「日本」を理解することが重要となると考えるので6で答えた主張となる
- 世界で〇〇が起って、日本で(母国で)〇〇という影響があったという過去・歴史を知ることができる。一つの教養となる：役に立つと思う。過去に〇〇があったから、今〇〇ことがもし起こったらカコの〇〇があるかもしれないと予測できるかもしれない
- 今の世界を理解すること、これからの未来の世界を考えていくことに役立つと思います
- 他国の歴史も学ぶことで、現在世界で起っていることも違う見方ができると思う
- 日本と世界がどのようにつながっているか知れる

今回は寄せられた自由記述式のコメントをカテゴリーに分類することで、記述式項目の回答データを整理したが、そこで浮かび上がったキーワードは「国際化」、「一般常識」、「何かの役に立つ」など、安井(2011)のものとは一致する。更なる知見を

得るためには聞き取り調査を含めた非参与観察などの研究方法も必要になってくると思われる。例えばカテゴリー3に分類した「西洋の昔の人の生活や歴史、考えを知ることができるので良いと思う」というコメントをした学生に対しては、なぜそれが良いと思うのか、という理由まで知りたいところである。また、カテゴリー8に分類した「先生が面白い授業をしてくれたため、必修で良かった。理系だったため、そうでないとその後は関わらなかっただろうと思われる」というコメントをした学生に対しては、それがどんな授業だったのか、その授業のどんなところが面白かったのか訊いてみたい。そのためには個人が特定できる形で質問紙調査をし、そのあと半構造化インタビューなどを行うことが必要になる。今回の調査で得られた所見をもとに、今後の研究計画を検討したい。

カテゴリー4に関してのみ、該当するコメントは国際文化学科の学生だけから出た。詳細な分析はここでは控えるが、国際文化学科では専門科目として「西洋の歴史」「アジアの歴史」「日本の歴史」が1年次前期に計6単位開講されている一方で、生活科学科では教養科目として1年次後期「歴史と文化」2単位があるのみであり、現在は日本史専門教員が担当している。このことが回答に影響している可能性もあると考えられる。

また、質問項目6番「高校で世界史が必修科目なのをどう思いますか」と、質問項目7番「世界史を学ぶことはどのような役に立つと思いますか」に寄せられた自由記述式の回答は似通っているものが多かったため、今後質問紙を作成するうえで、文言を検討することも課題としたい。

6. おわりに

今回の調査では、岩手県立大学盛岡短期大学部の学生は概して世界史学習に肯定的であるという印象を受けた。世界史の学習意義については、多様であるとはいえ、学生なりに考えているさまが見取れる。

今後は、既に実施した他大学での質問紙調査も加えた量的分析を実施することによって、大学生の世界史履修動向および受験科目選択傾向を把握していく。また、大学生の世界史学習に対する認識調査を深めるために、質問項目を検討したうえで新たな質問紙調査を実施し、聞き取り調査によって高等学校時代の世界史学習の実態へとアプローチする方法も考えられよう。そこから、大学における教養教育としての外国史教授のあり方について考察する手がかりが見出される可能性もあるのではないかと。本報告を踏まえて、さらなる課題発見へと繋げていきたい。

なお、本研究は、岩手県立大学学部等研究費(研究課題名：『世界史教育と外国史研究との連携・協働に向けた総合研究—岩手県における世界史教育の現状と課題—』(代表 吉原秋))から助成をうけたものである。

7. 参考文献

- 鈴木道也, 吉原秋, 小川春美, 安井萌, 小川知幸, 畑奈保美, 津田拓郎. (2016). 大学における世界史教育の現状と課題(1)—世界史学習に関する大学生たちの意識調査—, 岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集, 第18号, 65-71.
- 鶴島博和, 古澤政也, 高山直也, 古賀亮寛, 佐藤慶明. (2013). 世界史教育の現状と課題(1), 熊本大学教育学部紀要 Bulletin of the Faculty of Education, Kumamoto University (62), 29-56
- 安井萌. (2011). 世界史未履修問題と岩手大学生—アンケート調査結果によりながら—, 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第10号 23-35
- 大阪大学歴史教育研究会「歴史教育における高等学校・大学間接続の抜本的改革—アンケート結果と改革の提案—」(2014年9月)
<http://www.geocities.jp/rekikyoo/oshirase.html> (2016年1月20日閲覧)
- 日本学術会議史学委員会高校歴史教育に関する分科会「提言 再び高校歴史教育のあり方について」(2014年6月)
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t193-4.pdf> (2016年1月20日閲覧)
- 服部良久「高校歴史教育改革提言について」(2014年9月)
<http://www.medievalstudies.jp/2014/09/> (2016年1月20日閲覧)
- 独立行政法人大学入試センター「受験者数・平均点の推移(本試験)平成24年度センター試験以降」
<http://www.dnc.ac.jp/data/suii/h24.html> (2016年1月20日閲覧)

註

- 1 岩手大学生200名余り(教育学部生が大半であるが、他学部生も若干含む)を対象に行った同様の調査では、世界史Aと世界史Bの履修者の割合がそれぞれ68%、34%(両科目とも履修した者を含む)となっている。いわゆる文系の学生が多くを占めると思われるにもかかわらず、世界史Aの履修者数が世界史Bのそれをかなり上回っている。一方また、センター試験での地歴科目の受験状況を見ると、世界史Bの受験者の割合は21%であり、日本史Bの40%はもちろん地理Bの25%よりも少ない。岩手大学生にあつて、世界史は受験で敬遠されがちな科目であることが見て取れる。同じ県内の大学におけるこうした違いが何に起因するのか、あらためて検討の余地があるだろう。なお、岩手大学でのアンケート調査結果については、別途公表の予定である。